

物部川地域の目指すべき姿(産業振興の方向性)

農業分野...当地域の強みであるニラ、シントウなどの園芸作物を中心に、農業収入の増加や高品質化、有利販売への取組など、園芸産地として品目ごとにまとまりの再構築を図るとともに、消費側から信頼される産地を目指して、生産から流通・販売までを見通した対策を進める。中山間地域では、高齢農家とともに支える農業の仕組みづくりと集落の活性化に取り組む。

林業分野...「森の工場」づくりを推進し、事業体や担い手の育成を図ることで、素材の増産に取り組むとともに、加工においても消費者ニーズに対応した品質の向上や流通コストの低減に努め、林業・木材産業の再生に取り組む。また、労働力の不足を解消するため、公共事業等の減少により異業種への転換が求められている建設業などからも参入しやすい環境を整備する。素材生産時に発生する木質バイオマスの有効活用についても、検討を進める。

水産業分野...この地域の基幹的な魚種の一つであるシイラについて、漁協自らが入札に参加して浜値の向上を図るとともに、民間企業との連携による加工事業にも取り組み、漁業者の所得向上を図っていく。

商工業分野...産学官が連携して既存工業の高度化を進めるとともに、産業人材の安定的な供給に向けた取組を進めていく。伝統産業である土佐打刃物やフラフは、新商品の開発や販路の開拓、ブランド力の確立などを進めるとともに、次世代を担う後継者の育成に取り組む。農商工各分野の事業者が連携して、地域資源を活用した特色のある商品化を推進し、観光の取組と一体となって人を呼び込む賑わいの仕組みづくりを構築して、地域商業の活性化を図る。

観光分野...交通の要衝という地の利、のいち動物公園やアンパンマンミュージアム、龍河洞など県内で有数の集客力を誇る施設、県下で最も早くから開けた地域としての歴史と文化、取組が進みつつある体験観光メニューなどを有機的に組み合わせたツアールートの商品化していく。より広域的な視点から、高知市を含む広域行政組合の枠組みの活用等を図る。

主な指標及び目標

Table with 4 columns: 項目, 計画策定時, 目標, 現状. Rows include 認定農業者数, こうち型集落営農組織数, 新規に商品化した加工食品数, etc.

取り組みの成果と今後の方向性

- 取組の成果
○農業分野では、ニラ、シントウを中心に多品目園芸産地として、各品目で生産力対策(レンタルハウス、選果機の導入等)に取り組む、当地域のニラは販売額31.6億円(前年対比104%)、シントウ14.1億円(93%) [1,232t(105%)], ピーマン5.2億円(114%)となった(数値は22園芸年度)。
○林業分野では、森の工場が22年度末に6地区(9,400ha)となった(H21年度当初比146%)。
○水産業分野のシイラの加工商材活用については、共同作業場の改修(21年度末完成)や衛生管理向上のための施設改修(23年6月完成)を行い、販売先の確保や周年稼働に向けた加工体制の整備に取り組んでいる。
○商工業分野のうち、『ごめん』をブランド化については、軽トラ市の定期的開催の定着やごめん応援隊(チームゴメンジャー)の結成といった成果が出ている。「地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興」については、香美市内に地域アンテナショップが2店舗開設され、地場産業の紹介、商品の販売等を行っている。
○観光分野については、南国市、香美市においては、目標としている「観光コーディネート組織」の確立に向けて市の担当課を中心に検討を行っており、香南市では10タイプ以上の旅行商品の造成を目標に関係機関で取り組んでいる。各市とも並行して観光ガイド等の育成に取り組んでいる。

- 今後の方向性
○農業分野では、今後、農家所得向上、産地維持・発展のため、品目ごとのまとまりの再構築(収量向上、担い手対策)や特産野菜・果樹の販売力強化に向けて関係機関とともに取り組む。中山間地域では集落営農への機運も高まりつつあり、組織活動の充実と他地域への波及につなげる。
○林業分野では、木質バイオマスの活用について、今後は木質バイオマス燃料の生産・供給体制整備や木質バイオマス燃料使用によりCO2排出削減を実現した農産物の高付加価値化を検討していく。
○水産業分野のシイラの加工商材活用については、県漁協のスケールメリットを活かした加工用原魚の安定確保体制の構築、周年稼働に向けた体制整備の検討を行っていく。
○商工業分野のうち、『ごめん』をブランド化については今後は軽トラ市などのイベントを地道に継続していきつつ、地元で取組もうという機運の醸成に努める。一方、伝統産業である土佐打刃物、フラフのうち、土佐打刃物については、後継者育成にかかる計画を関係者で検討していく。フラフについては、産地PRの充実等を図っていく。
○観光分野については、ガイド養成に努めている一方で、実際にガイドできる人材が多数育つまでに至っておらず、今後はより実践的な取り組みの実施等を検討していく。また、広域観光については、行政及び関係機関の事務レベルで「物部川地域観光振興協議会」を組織し、情報を共有しながら、取り組

14.木質バイオマスの活用に向けての取組(需要者開発)【物部川地域全域】

取組の内容

・木質バイオマスの利用促進(具体的な需要者の開発)



主な成果

・ペレットボイラー導入(H21~H23:16基)園芸用
・チップボイラー導入(H21~H23:2基)園芸用1基、温泉1基
【木質バイオマス利用量(約)】
重油削減量 ペレット換算値 原木換算値
最小420KL 840t 2,100m³(1,510生t)
最大680KL 1,360t 3,400m³(2,450生t)

今後の方向性

・木質バイオマス燃料の安定供給体制の整備
・木質バイオマス燃料使用によりCO2排出削減を実現した農産物の高付加価値化

5.生産者と消費者をつなぐ場づくり~まずは農家レストラン~【南国市】

取組の内容

・地域の豊富な食材を活かし、生産者と消費者をつなぐ仕組みとしての「農家レストラン」の立ち上げ

主な成果

・「農家レストラン まほろば畑」オープン(H22年10月12日)
*道の駅南国「風良里」レストランの休業日(火曜)開設
来店者数平均182人/回



今後の方向性

・「まほろば畑」の取組を活かした民間との連携の検討

4.地産地消・食育の推進【南国市】

取組の内容

・地産地消のさらなる推進を図る

主な成果

・南国市の全小中学校(13校)への給食用食材(野菜・果物)の配送体制を実現(H21.11~)
・学校給食への供給割合 H19:5.1%→H22:10.9%
・業務筋への供給実績 H20:0事業体→H23:10事業体

今後の方向性

・H24年度以降の配送体制について、JA出資型農業生産法人設立をめぐる状況を注視しながら、対応方針を検討していく



6.地域の特産品づくり~農産物加工への取組~【南国市】

取組の内容

・食品加工への取り組みの基盤づくり

主な成果

・新規に商品開発に取り組む等により市販を開始した商品数 31品目(H21取組開始以降)

今後の方向性

・H24年度以降の商品開発支援の体制については、観光協会事務局の行政からの独立と併せて検討していく



10.高齢農家とともに支える農業の仕組みづくりと集落の活性化【香美市】

取組の内容

・集落営農の活動強化 ・農作業受委託の推進
・売れる米づくり ・園芸品目の導入と普及推進
・交流活動の推進

主な成果

・6つの生産部会が設立し、活動が活性化
⇒こうち型集落営農組織数0→1
・水稻受託作業量の増加
⇒H21:13ha→H23:16ha(見込)
・売れる米作りへの取り組み(谷相米の基準作成)
・園芸品目の導入(青ネギ、アジサイ、ニラ、直販用野菜)
・交流会の開催



今後の方向性

・組織活動の充実



12.香美市ブランドの確立・特産品づくり【香美市】

取組の内容

・地域特産品の加工・販売の仕組みづくり
・シカ肉の活用に向けた取組

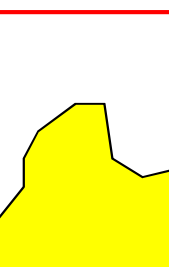
主な成果

・商品開発
⇒鹿バーガー、鹿ドッグ等
10品目(H21取組開始以降)
・「土佐の香美市のバザールぜよ」ネットショッピング開設(H22~)
⇒来店者数 4,114名(H23年7月末現在)



今後の方向性

・シカ肉の安定供給に向けた、他地域との協力体制の確立



19.観光交流のネットワークづくり(観光推進体制の確立強化)【南国市】

20.歴史的資源を活用した地域活性化への取組~土佐のまほろば~【南国市】

21.体験観光型メニューの滞在型旅行商品化アクションプラン【香南市】

22.観光交流の受け皿づくり【香美市】

取組の内容

・地域内のネットワークづくり、体験型観光のメニューづくり・ブラッシュアップ、ガイド等人材の育成

主な成果

・観光ガイド等養成講座 受講者数(3市合計) 延べ1,576名
・モニターツアーの実施(香南市、香美市合計) 11回
・長宗我部元親ラリーの実施(南国市) H22:参加者392名、H23:9月~11月開催
・観光ガイド組織の設立(南国市、香南市)

今後の方向性

・観光コーディネート組織の確立(南国市、香美市)
・エージェントに対するプロモーション(香南市)

1.南国市の園芸主幹品目の振興【南国市】

2.香南市・香美市の基幹園芸品目の販売力向上対策【香南市・香美市】

3.香南市・香美市の基幹園芸品目の産地力強化【香南市・香美市】

取組の内容

・生産対策では、まとまりを基調とした各生産部会で収量・品質向上(18品目・37地区)
・ロン、トマト、みかんでの商談会、ロンの農産物輸出等
・ピーマン選果機、環境保全型農業推進事業の導入

主な成果

・H22園芸年度 南国市ニラ4.6億円(前年対比110%)、JA土佐香美ニラ27.0億円(前年対比104%)、ナス2.7億円(前年対比104%)、ピーマン2.2億円(前年対比112%)
・エメラルドメロンは日射比例かん水制御システムを導入し、販売面では輸出及び商談で一定の評価が得られた。

今後の方向性

・販売額目標のためには、生産量の拡大(各品目の10a当りの収量向上)と面積拡大及び担い手の育成確保
・商談会等PR活動の強化



17.香南市コミュニティガイド事業【香南市】

取組の内容

・消費者への告知ツールの開発
・参加型コミュニティイベントの開催

主な成果

・ガイドブック(お店紹介BOOK)作成(H21)
⇒配布先:香南市全戸(13,000戸)、自衛隊関係者(約700戸)
・コミュニティイベント「香南百貨店おひろめ市in三宝山」の開催(H22)
⇒来場者:約2,000名

今後の方向性

・買い物弱者対策などによる大型量販店等との差別化



15.シイラの加工商材活用【香南市】

取組の内容

・施設整備・前処理加工の実施 等

主な成果

・高知県漁協の入札への参加
⇒浜値の底上げ(30円/Kgで買い支え)
・加工体制の確立
⇒地域雇用の拡大(H22 8名雇用)
・加工実績
⇒H21 処理量:50t 販売額:3,512千円
⇒H22 処理量:29t 販売額:2,571千円
⇒H23 処理量:5t 販売額:317千円(H23年6月末現在)



食品加工

今後の方向性

・新規販売先の開拓、新商品開発への取組

食品加工